

## 科目別シラバス 1

名称 株式会社アルプスビジネスクリエーション

科目名	1 職務の理解	
指導目的	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的イメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるように指導する。	
項目名	時間数	講義内容
多様なサービス理解	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険サービス(居宅、施設)</li> <li>・介護保険外サービス</li> </ul>
介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容</li> <li>・居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的イメージ(現場職員の体験談)</li> <li>・ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携</li> <li>・視聴覚教材の鑑賞、解説</li> <li>・グループディスカッションを行う。(介護職が働く現場や仕事の内容、サービス提供現場の具体的イメージについて)</li> </ul>
合計時間数	6	

使用する機器・備品等	視聴覚教材(DVD)
------------	------------

## 科目別シラバス 2

名称 株式会社アルプスビジネスクリエーション

科目名	2 介護における尊厳の保持・自立支援	
指導目的	介護職が、利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解させる。	
項目名	時間数	講義内容
人権と尊厳を支える介護	5	(1)人権と尊厳の保持 ○個人としての尊厳、○権利擁護、○個人の尊厳と価値、○社会的役割の実感 (2)ICF ○介護分野におけるICF (3)QOL ○QOL、○生活の質と人間の尊厳 (4)ノーマライゼーション ○ノーマライゼーションの理念と実際及び歴史 (5)虐待防止・身体拘束禁止 ○高齢者虐待防止法、○身体拘束禁止 (6)個人の権利を守る制度の概要 ○個人情報保護法
自立に向けた介護	4	(1)自立支援 ○専門職として求められる「自立」と「自律」、○自立支援のための介護方法 (2)介護予防 ○介護予防と健康寿命、○介護保険と介護予防、○介護予防と社会的入院  ・人権と尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援、介護予防の考え方を取り入れた介護について、グループディスカッションを行う。
合計時間数	9	

使用する機器・備品等	
------------	--

## 科目別シラバス 3

名称 株式会社アルプスビジネスクリエーション

科目名	3 基本の介護	
指導目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解させる</li> <li>・介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができるようにする</li> </ul>	
項目名	時間数	講義内容
介護職の役割、専門性 <sup>と</sup> 他職種 <sup>の</sup> 連帯	2	<p>(1)介護環境の特徴 ○訪問介護サービスとは、○施設介護サービス、○地域包括ケア</p> <p>(2)介護の専門性 ○重度化防止・遅延化の視点、○利用者主体の支援姿勢、自立した生活を支えるための援助、○根拠のある介護、○事業所内のチーム、多職種から成るチーム、○医行為と医療的ケア</p> <p>(3)介護に関わる職種 ○チームにおける役割分担、○介護に関わる職種の機能と役割</p> <p>・チームケアの重要性、役割分担などについてグループディスカッションを行う。</p>
介護職の職業倫理	2	<p>(1)介護職の職業倫理 ○法令遵守、○利用者の個人の尊厳と介入、○日本介護福祉会の倫理綱領</p>
介護における安全の確保	1	<p>(1)介護における安全の確保 ○介護における安全の確保、○リスクマネジメント、○リスクマネジメントにおける重要な要素</p> <p>(2)事故予防、安全対策 ○危険予防と事故予防、○事故発生時の対応、○事例検討</p> <p>(3)緊急時に必要な知識と対応方法 ○想定される事故、○応急手当(観察・対応の流れ)、○応急手当の実際、○一次救命処置の実際</p> <p>(4)感染症対策 ○感染症の理解、○注意すべき感染症とその対応、○感染症の予防と対策</p>
介護職の安全	1	<p>(1)介護職の心身の健康管理 ○介護職の健康管理、○介護職に起こりやすい健康障害、○腰痛予防、○感染症の予防、○ストレスマネジメント</p>
合計時間数	6	

使用する機器・備品等	
------------	--

## 科目別シラバス 4

名称 株式会社アルプスビジネスクリエーション

科目名	介護・福祉サービスの理解と医療との連携	
指導目的	介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できるようにする。	
項目名	時間数	講義内容
介護保険制度	3	<p>(1)介護保険制度創設の背景及び目的、動向  ○社会的背景、○介護保険法の成立、○介護保険制度の導入後の動向</p> <p>(2)介護保険制度の仕組みの基礎的理解  ○保険制度としての基本的仕組み、○サービス利用の流れ、○介護保険サービス(介護給付・予防給付)、○地域支援事業・市町村特別給付</p> <p>(3)介護保険制度の財源、組織・団体の機能と役割  ○制度運営の役割分担、○介護保険事業計画、○介護サービス事業者の質の確保、○苦情への対応、○情報公表・第三者評価</p> <p>(4)医療保険制度の概要  ○医療保険の種類、○医療の給付の内容</p> <p>・介護保険の理念についてグループディスカッションを行う。</p>
医療との連携とリハビリテーション	3	<p>(1)高齢者の服用と留意点  ○薬剤の服用と留意点、○薬剤の副作用、○医師や薬剤師との連携についての知識、管理</p> <p>(2)経管栄養、吸引、吸引、洗腸など  ○医療処置の目的と方法、○医療処置を行っている人の介護</p> <p>(3)健康チェック  ○健康チェックに必要な身体観察の視点と観察技術、○他職種との連携のための観察やケアから得た情報の提供</p> <p>○体温計、血圧計の実践</p> <p>(4)訪問看護  ○訪問看護ステーション、訪問看護と訪問介護の連携</p> <p>(5)リハビリテーション医療の意義と役割  ○リハビリテーション医療の流れ・介護の連携</p> <p>(6)リハビリテーション医療の過程  ○急性期・回復期・維持期リハビリテーション</p> <p>(7)訪問・通所・地域リハビリテーション</p>
障害者自立支援制度及びその他制度	3	<p>(1)障害者福祉制度の理念・背景と目的  ○法律で定める障害の捉え方、○障害者(児)福祉の背景と動向、○障害者雇用と就労状況</p> <p>(2)制度の仕組みの基礎的理解  ○障害福祉サービスの仕組み、○所得の保障</p> <p>(3)個人の権利を守る制度の概要  ○基本理念、○制度の概要や目的</p>
合計時間数	9	

使用する機器・備品等	体温計 血圧計
------------	---------

## 科目別シラバス 5

名称 株式会社アルプスビジネスクリエーション

科目名	介護におけるコミュニケーション技術	
指導目的	高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき(取るべきでない)行動例を理解させる	
項目名	時間数	講義内容
介護におけるコミュニケーション	3	<p>(1)コミュニケーションの意義、目的、役割 ○コミュニケーションの基本要素、○コミュニケーションの目的と方法○相手のコミュニケーション能力への理解と配慮</p> <p>(2)コミュニケーションの手段と技法 ○言語的コミュニケーション、○非言語的コミュニケーション</p> <p>(3)利用者・家族への対応の基礎知識 ○カウンセリングマインド、○良いコミュニケーションと悪いコミュニケーション</p> <p>(4)利用者・家族への対応の実際 ○利用者、家族の思いを把握するコミュニケーション、○利用者との信頼関係を結ぶコミュニケーション、○家族へのいたわりと励まし</p> <p>(5)利用者の状況・状態の応じた対応 ○視力障害者・聴力障害者・盲ろう者○失語症に応じたコミュニケーション、○構音障害に応じたコミュニケーション、○認知症に応じたコミュニケーション、○高次脳機能障害に応じたコミュニケーション</p> <p>・事例に基づくコミュニケーション方法の技法及び討議をグループワークにて行う。</p>
介護におけるチームのコミュニケーション	3	<p>(1)記録における情報の共有化 ○記録の意義・目的、○記録の種類、○記録の書き方、○記録に関わる法令</p> <p>(2)報告・連絡・相談 ○報告・連絡・相談の意義・目的、○報告・連絡・相談の方法</p> <p>(3)コミュニケーションを促す環境 ○会議の種類と会議に臨む姿勢、○ケアカンファレンス、○サービス担当者会議、○事例研究・事例報告</p> <p>・個別援助計画書の作成、報告・連絡・相談の演習をグループワークにて行う。</p>
合計時間数	6	

使用する機器・備品等	
------------	--

## 科目別シラバス 6

名称 株式会社アルプスビジネスクリエーション

科目名	老化の理解	
指導目的	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解させる	
項目名	時間数	講義内容
老化に伴うこととからだの変化と日常	3	(1)老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ○華麗と老化の概念、○人格と尊厳、○老いの価値、○性役割と老年期の性 (2)心身の機能の変化と日常生活への影響 ○老化に伴う心身の機能の変化、○身体的変化、○心理的变化  ・生理的側面の知識を身につけることの必要性についてグループディスカッションを行う。
高齢者の健康	3	(1)高齢者の疾病(老年症候群)と生活上の留意点(外科系) ○老年症候群、○老年症候群の早期発見、○運動器の機能向上、○口腔機能の改善、○低栄養の改善、○認知機能を高める、○尿失禁の改善 (2)高齢者に多い病気と生活上の留意点(内科系) ○生活習慣病、○脳神経系の病気、○循環器系の病気、○呼吸器の病気、○肝臓・胆道系の病気、○腎・泌尿器の病気、○骨や耳の病気、○皮膚の病気
合計時間数	6	

使用する機器・備品等	
------------	--

## 科目別シラバス 7

名称 株式会社アルプスビジネスクリエーション

科目名	認知症の理解	
指導目的	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解させる。	
項目名	時間数	講義内容
認知症を取り巻く状況	1	(1)認知症ケアの理念 ○認知症ケアの理念、○パーソンセンタードケア、○認知症ケアの視点
医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	(1)認知症の概念、認知症の原因疾患・病態 ○認知症の概念、○認知症の中核症状、○認知症の原因疾患の診断、○認知症の治療、○認知症と間違えやすい症状、○認知症についての最近の話題 (2)、原因疾患別ケアのポイントと健康管理 ○長期にわたる食生活の偏り、○脱水・便秘・低栄養・運動量の低下・廃用症候群(生活不活発病)・口腔ケア
認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2	(1)生活障害、心理・行動の特徴 ○認知症の人の心の内、○周辺症状(BPSD)にみる認知症の人の思い、○原因疾患による認知症症状の違い (2)利用者への対応 ○ケアのあり方と周辺症状、○認知症症状の背景を読み解く、○非薬物療法
家族への支援	1	(1)家族との関わり方 ○認知症の受容過程での援助、○介護負担の軽減(レスパイトケア) ・家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについて、グループディスカッションを行う。
合計時間数	6	

使用する機器・備品等	
------------	--

## 科目別シラバス 8

名称 株式会社アルプスビジネスクリエーション

科目名	障害の理解	
指導目的	障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解させる	
項目名	時間数	講義内容
障害の基礎的理解	1	(1)障害の概念とICF(障害者福祉の基本理念) ○障害者福祉の基本理念、○障害の概念と国際生活機能分類(ICF)
障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1	(1)肢体不自由(身体障害) ○肢体不自由の代表的な病気とその障害像、○生活援助のポイント、○廃用症候群(生活不活発病)、○障害受容のプロセスを踏まえた対応 (2)内部障害 ○内部障害の代表的な疾患・障害、○生活援助のポイント、○その他の疾患・障害 (3)視覚障害・聴覚障害 ○視覚障害、○聴覚障害、○平衡機能障害 (4)音声・言語・咀嚼機能障害 ○失語症、○構音障害、○発生障害、○咀嚼・嚥下機能障害 (5)精神障害、(6)統合失調症、(7)躁うつ病等、(8)神経症性障害(神経症)、(9)アルコール依存症、(10)知的障害、(11)発達障害、(12)ダウン症、(13)高次脳機能障害  ・グループディスカッションを行いそれぞれの障害の特性と留意点の理解をする。
家族の心理、かかわり支援の理解	1	(1)家族の心理・かかわり支援 ○介護する家族の遭遇するストレス、○障害の理解と受容支援、○介護負担の軽減
合計時間数	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

## 科目別シラバス 9-1

名称 株式会社アルプスビジネスクリエーション

科目名	こころとからだのしくみと生活支援技術	
指導目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部又は全介助等の介護が実施出来るようにする。</li> <li>・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得させる。</li> </ul>	
項目名	時間数	講義内容
介護の基本的な考え方	4	○理論に基づく介護(ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除)、○法的根拠に基づく介護
介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4	○学習と記憶の基礎知識、○感情と意欲の基礎知識、○自己概念と生きがい、○老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因、○こころの持ち方が行動に与える影響、○からだの状態がこころに与える影響
介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4	○人体の各部の名称と動きに関する基礎知識、○骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用、○中枢神経系と体性神経に関する基礎知識、○自律神経と内部器官に関する基礎知識、○こころとからだを一体的に捉える、○利用者の様子の普段との違いに気づく視点
生活と家事	3	(1)家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援 ○生活歴、○自立支援、○予防的な対応、○主体性・能動性を引き出す、○多様な生活習慣、○価値観
快適な居住環境整備と介護	3	(1)快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 ○家庭内に多い事故、○バリアフリー、○住宅改修、○福祉用具貸与
合計時間数	18	

使用する機器・備品等	視聴覚教材(DVD)、ベット、シーツ、枕、毛布、クッション、タオルケット、バスタオル、タオル、アイマスク、車いす、杖、白杖、歩行補助器、ポータブルトイレ、浴槽、衣類、ゴム手袋、ハミング、ポリ尿器、オムツ、温度計、洗面器、バケツ、シャンプー、リンス、ドライシャンプー、スプーン、コップ、ストロー、とろみ材、綿棒、爪きり、ドライヤー、ヘアブラシ
------------	--

## 科目別シラバス 9-2

名称 株式会社アルプスビジネスクリエーション

科目名	こころとからだのしくみと生活支援技術	
指導目的	<p>・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部又は全介助等の介護が実施出来るようにする。</p> <p>・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得させる。</p>	
項目名	時間数	講義内容
整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	<p>(1)整容に関する基礎知識、整容の支援技術 ○身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、○身じたく、○整容行動、○洗面の意義・効果</p> <p>・視聴覚教材(DVD)の鑑賞、解説 ・実技演習 衣服の着脱の介助</p>
移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	12	<p>(1)移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援 ○利用者との介護者の双方が安全で安楽な方法、○利用者の自然な動きの活用、○残存能力の活用・自立支援、○重心・重力の働きの理解、○ボディメカニクスの基本原則、○移乗介助の具体的な方法(車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車いす・洋式トイレ間の移乗)、○移動介助(車いす・歩行器・つえ等)、○褥瘡予防</p> <p>・視聴覚教材(DVD)の鑑賞、解説 ・実技演習 移乗・移動の介助</p>
食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	<p>(1)食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援 ○食事をする意味、○食事のケアに対する介護者の意識、○低栄養の弊害、○脱水の弊害、○食事と姿勢、○咀嚼・嚥下のメカニズム、○空腹感、○満腹感、○好み、○食事の環境整備(時間・場所等)、○食事に関した福祉用具の活用と介助方法、○口腔ケアの定義、○誤嚥性肺炎の予防</p> <p>・視聴覚教材(DVD)の鑑賞、解説 ・実技演習 食事の介助</p>
入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	<p>(1)入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法楽しい入浴を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法 ○羞恥心や遠慮への配慮、○体調の確認、○全身清拭(身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方)、○目・鼻腔・耳・爪の清潔方法、○陰部清浄(臥床状態での方法)、○足浴・手浴・洗髪</p> <p>・視聴覚教材(DVD)の鑑賞、解説 ・実技演習 入浴の介助、清潔保持に関する介助</p>
合計時間数	32	

使用する機器・備品等	<p>視聴覚教材(DVD)、ベット、シーツ、枕、毛布、クッション、タオルケット、バスタオル、タオル、アイマスク、車いす、杖、白杖、歩行補助器、ポータブルトイレ、浴槽、衣類、ゴム手袋、ハミング、ポリ尿器、オムツ、温度計、洗面器、バケツ、シャンプー、リンス、ドライシャンプー、スプーン、コップ、ストロー、とろみ材、綿棒、爪きり、ドライヤー、ヘアブラシ</p>
------------	---

## 科目別シラバス 9-3

名称 株式会社アルプスビジネスクリエーション

科目名	こころとからだのしくみと生活支援技術	
指導目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部又は全介助等の介護が実施出来るようにする。</li> <li>・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得させる。</li> </ul>	
項目名	時間数	講義内容
排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	(1)排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法 ○排泄とは、○身体面(生理面)での意味、○心理面での意味、○社会的な意味、○プライド・羞恥心、○プライバシーの確保、○おむつは最後の手段/おむつ使用の弊害、○排泄障害が日常生活上に及ぼす影響、○排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連、○一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法、○便秘の予防(水分の摂取量保持、食事内容の工夫/繊維質の食物を多く取り入れる、腹部マッサージ) ・視聴覚教材(DVD)の鑑賞、解説 ・実技演習 排泄の介助
睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	4.5	(1)睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法 ○安眠のための介護の工夫、○環境の整備(温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室)、○安楽な姿勢・褥瘡予防 ・視聴覚教材の鑑賞、解説 ・実技演習 安楽な姿勢の介助、褥瘡予防に関する介助
死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護	1.5	(1)終末期に関する基礎知識とこころとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うこころの理解、苦痛の少ない死への支援 ○終末期ケアとは、○高齢者の死に至る過程(高齢者の自然死(老衰)、癌死)、○臨終が近づいたときの兆候と介護、○介護従事者の基本的態度、○多職種間の
介護過程の基礎的理解	6	○介護過程の目的・意義・展開、○介護過程とチームアプローチ
総合生活支援技術演習	6	(事例による展開) 生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。 ○事例の提示→こころとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題(1事例1.5時間程度で上のサイクルを実施する) ○事例は高齢(要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可)から2事例を選択して実施
合計時間数	25	

使用する機器・備品等	視聴覚教材(DVD)、ベット、シーツ、枕、毛布、クッション、タオルケット、バスタオル、タオル、アイマスク、車いす、杖、白杖、歩行補助器、ポータブルトイレ、浴槽、衣類、ゴム手袋、ハミング、ポリ尿器、オムツ、温度計、洗面器、バケツ、シャンプー、リンス、ドライシャンプー、スプーン、コップ、ストロー、とろみ材、綿棒、爪きり、ドライヤー、ヘアブラシ
------------	--

## 科目別シラバス 10

名称 株式会社アルプスビジネスクリエーション

科目名	振り返り	
指導目的	研修全体を振り返り、本研修を通して学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。	
項目名	時間数	講義内容
振り返り	2	<p>○研修を通して学んだこと、○今後継続して学ぶべきこと</p> <p>○根拠に基づく介護についての要点(利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等)</p> <p>・グループディスカッションを行い、研修で学んだこと、今後継続して学んでいくことについて考える。</p>
就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2	○継続的に学ぶべきこと、○研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における事例(Off-JT、OJT)を紹介
合計時間数	4	

使用する機器・備品等	
------------	--